

記入日：令和2年8月22日

所在地（都道府県/市町村）：香川県		
法人名：特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会		
施設・事業所名：香川県社会就労センター協議会	担当者名：長田・中條	
事業種類：共同受注窓口		
主たる障害：	令和2年3月末現在 定員： 人	
TEL:087-813-1420	FAX:087-813-1421	E-mail:k_syurou@selp.or.jp

① 令和元年度までの主な取り組み内容

<p>共同受注窓口として</p> <p>1 農福連携</p> <p>2 請負作業（・施設内作業 印刷 簡易作業等 ・施設外作業 草刈り 清掃等）</p> <p>3 バザール開催（年2回のナイスハートバザール・年1回ヨロコビバザール等の開催）</p> <p>4 販売所の運営（市役所・社協等3ヶ所）</p> <p>5 共同商品の販売（和三盆・フラットファイル・オフィスバック・花の寄せ植えの年間契約等）</p> <p>6 優先調達（県・各市町・国より 印刷及び草刈り清掃等）</p>

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

<p>コロナによる厳戒態勢時には道の駅、商店などが閉店しているため事業所が納品しているクッキー、パン等が納めらなくなり、在庫を抱えたり、販売場所を探す事業所が多くあった。また、農福関係の施設外就労を取りやめる施設があった。</p> <p>縫製ができる施設はマスクを作成し、施設で利用、マスクの販売場所を探している施設が現れてきて、当協会でも運営している「たかまつふれあいの店」にて販売するようになる。</p>
--

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

<p>事例タイトル：マスクをみんなで！</p>
<p>取り組み内容： 優先調達を利用しマスクを18の会員施設で制作し県市町に納めていく。</p>

④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

きっかけ

3月下旬に4月末までに香川県障害福祉課よりマスクを10,000枚準備できないかの相談があり、会員施設に問い合わせしたところ当時約3事業所がマスクを作成しているとの返事があり、各施設を合わせても10,000枚は準備できないこともあり、就労センター・2事業所・県が集まる場所を設ける。

現状の3施設では各施設違ったマスクを作成しており統一感がない、生産工程が違い納期がまばらである、マスクの材料が仕入れできない等の問題があり、会員施設にマスク作成に参加しやすい環境を作ることとする。

- 1 作りやすく・発注元である県と打合せをしてマスクの型を決定する
- 2 材料を就労センターが準備する
マスクの表面は県の紹介、ゴムひもは日本セルプより、ガーゼ部分は地元手芸店より（ロットが多いため優先的に仕入れることができた）
- 3 マスクの型紙に合わせて布をカットすることが手間がかかり事業所もここをやりたくないこともあり、マスク表面を提供してくれている会社がYシャツのメーカーであったので表面・ガーゼ部分を断裁してもらうことができた。
- 4 マスクを縫う作業を前面にして会員施設に依頼をすると18事業所がマスク作成に参加してくれることとなる。
- 5 企画段階から事業所にきちんとした作業費ができるよう県とも価格について検討していく

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

- ・家庭内用ミシンでできる作業のため、縫製作業をしていなかった施設も関わることができた。
- ・事業所へのマスク作成費が1枚100円以上を提供できることとなった。
- ・売上は県・高松市を合わせて3,850,000円（11,000枚）優先調達として
- ・地元三木町より敬老の日の会がコロナで開催できないため、マスクに町のシンボルキャラクターを印刷することにより4,500枚の発注がある。（10事業所が参加）
- ・コロナで施設外就労できなくなった額以上の収入が出た施設もある

⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

特になし

⑦ 今後の課題・展望

- ・当協議会のホームページの販売サイトの開設（県の補助金300万円）
- ・コロナによる当協会主催のバザール開催時期、対策等について



